

秋田複合材新成形法技術研究組合(略称:ANC技術研究組合)の概要

設立年月日 : 平成29年4月3日

理事長 : 小川 信明 (国立大学法人 秋田大学理事兼統括副学長)

組合員 : 国立大学法人秋田大学、公立大学法人秋田県立大学、(株)三栄機械、
日本精機(株)【2企業、2大学】

事業費 : 平成29年度約9千万円 (秋田県委託事業)

事業の概要 : 複合材の新たな製造技術及び接合検査技術に関する研究開発。

○ 組合設立の目的

航空機機体主要構造物をターゲットとした複合材の革新的な低コスト製造技術・検査技術を開発し、秋田県での複合材製造、製造装置・検査装置の事業化と機体主要構造物の製造拠点の創生を図るとともに、自動車分野や福祉医療分野等軽量化が求められている分野での事業化を図る。

○ 実用化の方向性

独自技術である微小金属体を用いた電場加熱、磁場加熱による複合材成形技術により、現在のオートクレーブ法に比較して圧倒的な低コスト製造技術を確立する。

また、複合材の組立は、生産効率の低いボルト接合が用いられているが、接着品質を非破壊で検査する技術を確立することにより、生産性の高い接着での組立を可能とする。

○ 事業化の目途の時期

航空機構造物に関しては、10年後を目処に新型旅客機で実用化を目指し、自動車や医療福祉分野では、2年から5年後を目処に順次、実用化を図っていく。



